

『気付く』背景・要因推察のための実態把握シート

年 組	児童生徒名		記入日(記入者)	
-----	-------	--	----------	--

認知特性

	行動や様子から	チェック【○】	所 見
図・立体	①本や教科書から「図やグラフを読み取る」	得意 普通 苦手	
	②「地図を読んで」行き方を調べる	得意 普通 苦手	
	③図工や美術の授業で「形や構図を考える」	得意 普通 苦手	
	④		
言語推論	①相手に「できごとを説明する」	得意 普通 苦手	
	②日常会話で「話が分からなくなる」こと(耳)	少ない 普通 多い	
	③文字や文章を読んで理解できる(目)	得意 普通 苦手	
	④		
記憶	①「複数の指示されたこと」を覚える(耳)	得意 普通 苦手	
	②板書を写すときに「黒板を確認すること(目)	少ない 普通 多い	
	③	少ない 普通 多い	
	④		
処理	①板書を「早く写すこと	得意 普通 苦手	
	②時間の決められた課題で「時間切れ」になること	少ない 普通 多い	
	③着替えや準備に「時間がかかること	少ない 普通 多い	
	④		
運動	①相手の動作や動きを「マネすること	得意 普通 苦手	
	②「細かい作業・組み立て」をすること	得意 普通 苦手	
	③「バランスよくきれいに」字を書くこと	得意 普通 苦手	
	④		
注意	①相手の話を「終わりまで聞くこと	得意 普通 苦手	
	②目の前に色々な物があっても「課題に集中する」	得意 普通 苦手	
	③周りがにぎやかでも「作業を続けること	得意 普通 苦手	
	④		
計画	①初めての課題への「取り掛かりが遅い」	少ない 普通 多い	
	②作業するとき「効率のよい手順を考える」こと	得意 普通 苦手	
	③旅行や外出時に必要な「準備を整える」こと	得意 普通 苦手	
	④		

取り組みやすい学習環境

※本人の学びに対し好ましい環境に○を、苦手な環境に△をつけてください

感覚の傾向	心理面の影響	対人関係の影響	見通しの影響	注意の持続
<ul style="list-style-type: none"> ・静かな所 ・にぎやかな所 ・明るい所 ・暗い所 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなでやる ・一人でやる ・興奮した状態 ・何かが気になっている状態 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒にいる ・初めての人とやる ・人に見られている ・教師が見ている 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての活動 ・経験したことがある活動 ・日常的に行っている活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間読み続ける ・長時間聞き続ける ・自分のペースで長時間取り組む

『気付く』背景・要因推察のための実態把握シート

認知特性			
	行動や様子から	チェック【○】	所見
図・立体	①本や教科書から「図やグラフを読み取る」	得意 普通 苦手	
	②「地図を読んで」行き方を調べる	得意 普通 苦手	
	③図工や美術の授業で「形や構図を考える」	得意 普通 苦手	
	④		
言語推論	①相手に「できごとを説明する」	得意 普通 苦手	
	②日常会話で「話が分からなくなる」こと（耳）	少ない 普通 多い	
	③文字や文章を読んで理解できる（目）	得意 普通 苦手	
	④		
記憶	①「複数の指示されたこと」を覚える（耳）	得意 普通 苦手	
	②板書を写すときに「黒板を確認する」こと（目）	少ない 普通 多い	
	③	少ない 普通 多い	
	④		
処理	①板書を「早く写す」こと	得意 普通 苦手	
	②時間の決められた課題で「時間切れ」になること	少ない 普通 多い	
	③着替えや準備に「時間がかかる」こと	少ない 普通 多い	
	④		
運動	①相手の動作や動きを「マネする」こと	得意 普通 苦手	
	②細かい作業・組み立て」をすること	得意 普通 苦手	
	③「バランスよくきれいに」字を書くこと	得意 普通 苦手	
	④		
注意	①相手の話を「終わりまで聞く」こと	得意 普通 苦手	
	②目の前に色々な物があっても「課題に集中する」	得意 普通 苦手	
	③周りがにぎやかでも「作業を続ける」こと	得意 普通 苦手	
	④		
計画	①初めての課題への「取り掛かりが遅い」	少ない 普通 多い	
	②作業するとき「効率のよい手順を考える」こと	得意 普通 苦手	
	③旅行や外出時に必要な「準備を整える」こと	得意 普通 苦手	
	④		

【実態把握シートの使用にあたって】

※実態把握シートの各項目については、発達検査を参考にしておりますが、発達検査そのものではありませんので、大まかな認知の状況の把握としてご活用ください。

※実際に子どもの実態把握に使用する際は、所見に具体的な場面における行動の様子を記入すると、多面的・多角的な視点で捉える参考になります。